



民進党

今こそ、生まれかわるとき。

民進党綱領

我が党は、「自由」「共生」「未来への責任」を結党の理念とする。

私たちは、「公正・公平・透明なルールのもと、多様な価値観や生き方、人権が尊重される自由な社会」

「誰もが排除されることなく共に支え、支えられる共生社会」「未来を生きる次世代への責任を果たす社会」を実現する。

◆ 私たちの立場 我が党は、「生活者」「納税者」「消費者」「働く者」の立場に立つ。未来・次世代への責任を果たし、既得権や癒着の構造と闘う、国民とともに進む改革政党である。

党のあり方に関する 都道府県連の意見

(2017年11月18日現在)

民進党が今後いかにあるべきかを考えるため、10月30日に開いた全国幹事会で都道府県連役員から前執行部に対して出された総選挙の総括と今後の党運営に関する意見、その後11月6日までに書面で提出された追加意見、11月18日に再度開いた全国幹事会・自治体議員団等役員合同会議で桜井充組織委員長が提案した「都道府県連とともに総支部も基本的に存続させる」とする方針案に対する都道府県連役員等の意見から、主なものを掲載する。「10/30」は10月30日の全国幹事会、「書面」は11/6までに提出された書面、「11/18」は11月18日の全国幹事会での意見表明。



東北

岩手県連

- 地方組織の存続と今後の方向性について、立憲、希望の国会議員、地方組織との連携の仕方に、どうあるべきか、民進党の県連として各国会議員と政策協定を結ぶべきか。(10/30)
- 従来の野党連携の形で情報交換という話も出ていた。どのように対応していくべきか。(以上、11/18)
- 総支部の存続については、総支部の見直しとともに、自治体支部の要件の厳格化も進めてほしい。(以上、11/18)

宮城県連

- 地方組織を存続させるならば、総支部を残すべき。その際、総支部長に都道府県議、政令市議(どちらも不在の場合は一般自治体議員)が就任できるように、総支部運営は党からの財政支援が必要。
- 市町村議員は少数の公認候補より多くの無所属の方が党勢拡大につながる。無所属にも選挙時に党員も含め支援すべき。
- 立憲、希望の日常活動、選挙時などの連携・協力体制の強化を。(以上、書面)

秋田県連

- 今後の民進党の役割は、やはり各政党、立憲や希望、無所属の人の差を縮めること。ヒト・モノ・カネがあるのは私たちが。今まで国会議員中心の政党だったが、総支部長を地方議員にしたり、ローカルパーティーを各地域でつくって、そこに例えば今の資金を入れて、そこをいろいろな政党を応援できる。時間を全部つぎやるようなのを早急につくる必要がある。(以上、10/30)

北海道

北海道県連

- 民進党の存続と今後の方向性について、立憲、希望の国会議員、地方組織との連携の仕方に、どうあるべきか、民進党の県連として各国会議員と政策協定を結ぶべきか。(10/30)
- 従来の野党連携の形で情報交換という話も出ていた。どのように対応していくべきか。(以上、11/18)
- 総支部の存続については、総支部の見直しとともに、自治体支部の要件の厳格化も進めてほしい。(以上、11/18)

関東

茨城県連

- 今後は組織の在り方を含め、地方の意見を十分に集約し、丁寧な説明を行う中で、組織としての最終判断を行うことを求める。
- 地方組織の維持・強化のため、これまで以上の財政支援を求める。
- 来年12月の茨城県議会選挙、次期統一自治体選挙、参院選に向けて、組織の在り方を含め早急に具体的な案を求める。
- 党勢拡大に向け、各支部の立ち上げや党員・サポーターへの連携強化を。(以上、書面)

栃木県連

- (1月)は再生のための様々な党大会にしてほしい。(10/30)
- 政策、方針の決定プロセスには、地方の総支部の人も加えるべき。
- 政党交付金は、国会議員のお金でなく政党に対する寄付金。党の組織強化に投資するべき。地方議員育成のためにも政党交付金を増やすべき。
- 党は社会を変えるためのツール。大塚代表も地方に来て声を聞かせてほしい。ぜひ、党の魅力を見せてほしい。(以上、書面)

群馬県総支部

- これまでの反省をしっかりと議論していただき、今後の党の基礎をつくるべきと考えてほしい。(10/30)

群馬県2区総支部

- 私たちが4月に選挙がある。新しい執行部にはしっかりと地方の議員の意見も聞いてほしい。(10/30)
- 県連や総支部の資金を場合によっては、他の党で当選した国会議員との関係でグレーゾーンに入ってしまう心配。(11/18)

埼玉県連

- 党員・サポーターへの経過説明が必要。
- 立憲、希望の地方体制の確立を。(以上、書面)
- 総支部を継続した場合、過去の負債の返済など心配。一度期間を切ってからと複数回を聞いてほしい。別立てで新しい総支部長を決めたい。
- 前総支部長などが総支部に移っても党員・サポーターは民進党から入っていた人たち。きちんとかたちと名前を整理し県連や総支部で運用できる形を作りたい。(11/18)

神奈川県連

- 神奈川県議会では第2党で横須賀市会第2党。副議長を取りたい。今後このポジションが維持できるよう、高いレベルでの調整をぜひお願いしたい。(10/30)
- 党の決定に基づき他党が立候補した総支部長は民進党への復帰を認め、党を超えた連携の場面に使えてほしい。
- 野党がバラバラの状態では、選挙で与党に勝てるはずがないので再結集を図るべき。(以上、書面)

千葉県連

- 3党の間で地方でもきちんとした政策協定を結び、その中で選挙区の調整と、お互いの応援態勢を組むことを明文化していただき、きちんとした応援態勢をお願いしたい。そうすれば参院についてもお互いに連携して協力できる。(10/30)

山梨県連

- 本部の新執行部体制を早期に確立してほしい。
- 民進党組織を現状維持ということではなく、「新生民進党」というような再スタートしてほしい。
- 総支部、党員、サポーターなどに関わる取り扱いは早期に明確にすること。
- 県内に、立憲や希望の組織が出来る場合、いかに対応すべきか、各県連の状況を把握し対応したい。
- 県連組織維持の財政面の支援を最大限お願いする。(以上、書面)

東京都連

- 女性がちゃんと活用されるような組織にすることがこれからの体制にとって重要。ぜひ女性の意見もより活発に聞きたい。(10/30)
- 国会より都道府県、都道府県より政令市・中核市、政令市・中核市より一般市、市よりも町村と、明確なボトムアップの意思決定の仕組みと全員参加の地方組織の再構築を。
- 本部常任幹事会に地方組織の情報共有・共有ができる自治体議員の代表を複数選出する。(以上、書面)

東海

岐阜県連

- 民進党の川所市長を明確に。組織、活動を作り直し。理念・政策も早急に明確に。連合など支援組織と協力を進めてほしい。民進党の将来性、立ち位置を明確に。
- 地方組織の存続は党の将来を大きく左右する。十分なサポートをお願いしたい。(以上、書面)
- 私の小さい選挙区では衆議院補選を確保できなかったが、「反自民の受け皿をこの地域で引き継ぎ守りたい」と確認している。組織委員長の提案する総支部の存続には賛成だ。(11/30)

静岡県連

- これからの運営について、地方の意見をどう取り入れるかは組織的に明確にすべき。(10/30)
- 地方の声を党運営に十分反映させること。今後はトリアップだけでなく、ボトムアップもできる党運営を希望する。(書面)
- 民進党ですべて行くのか、統一選挙、参院選までなのかを明確にしてほしい。民進党を失うリスクは、新民主連党より高いはずがないと理解を得られない。
- 前総支部長の会計処理は期限を決めてほしい。(以上、11/18)

近畿

滋賀県連

- 総支部をしっかりと残すには、暫定的にも県議が総支部長になれたら早期改正が必要。(10/30)
- 党方針の再構築を望む。
- 市民連合など市民団体との共闘はこれからの重要なことで、関係復活をお願いしたい。(以上、書面)
- 組織委員長の方針について、各地方の組織の幹部が男性が多いという点と、女性議員の意見も取り入れてほしい。(10/30)
- 1年後とか統一選挙までとしかいっていただけでなく、本当に早い段階で、皆が納得できる状況をつくってほしい。(10/30)
- ローカルパーティーの話が出ていたが、民進党の地方組織ではなく、民進党系のローカルパーティーを設立した場合に、民進党本部から財政的支援は考えられるのか。(書面)
- 希望に合致するという前提で、6選挙区で比例復活も含めて4人が当選した。本当に総支部を残すことが必要なのかは都道府県連の状況の中で判断してほしい。(11/18)

兵庫県連

- 民進党をつなげる役割は、時期的に一定期間を設定して行うべきだ。(10/30)
- 立憲と希望の比例票を合わせると自民と一緒になっていることは、国民がそういう今の状況を選択しているということではないか。本当に政権を奪取するにはこのような状況を加減させることが必要ではないか。(11/18)

奈良県連

- 統一選挙、参院選に向けて民進党をしっかりと再スタートさせるべき。今後の議論は自治体議員を主体に入れてほしい。(10/30)
- 組織委員長の方針は全く異なるが、総支部を今後運営していくに当たっては、公認国会議員を輩出していくことが最大の目的。衆議院に向けての取り組みが非常に大事だ。
- 分かれてしまった以上、3党の合同は非現実的ではないが、両党との連携が不可欠。候補者調整もほとんど力強くやっていく方針を党大会で力強く述べてほしい。(11/30)

和歌山県連

- 県連で、自民党30で民進党は私1人だが、立憲が出てくる可能性もある。ある程度その辺のタイムスケジュールも示し今後をどう考えてほしい。(10/30)

大阪府連

- 民進党が存続するならばその目的・理念をもっと強い言葉でいってほしい。(10/30)

四国

香川県連

- 国会議員の数をカウチ制にしようという議論もあるが、女性議員をたくさんつこうという話があるが、この会場を見て女性が多いと見当たらなかった。これは各地方の組織の幹部が男性が多いという点と、女性議員の意見も取り入れてほしい。(10/30)

愛媛県連

- 民進党がなかったら地方組織はたないで、やはり(ゆ)ははっきりした形がほしい。
- 今日の会議を踏まえた形でも、もう1回会議を開いてほしい。本部の役割でも、やはり国会議員の皆さんにぜひ将来的なことを出してほしい。方向性についてもまた話し合いたい。(10/30)
- 希望で通った自石さん、参院選で参連した水江さん、連合、支援者などで自由に議論できる会を前回の前参議員リーダーにしてほしい。(11/18)



山形県連は議事進行について、三重、徳島両県連は執行部人事について発言あり。このほか、青森、福島、新潟、石川、愛知、高知、熊本の各県連も参加のうえ、提案事項等を承認した。

党員・サポーター、自治体議員、支援者の皆様へ

新代表に選出された大塚耕平です。今回の総選挙における混乱をおわび申し上げます。しかし、政治に終わりはありません。「主権者」である国民の皆さまに政権選択の機会を提供申し上げるのが、公党としての私たちの使命です。再来年の統一地方選挙、参議院選挙、そして4年以内にある総選挙に向けて、私たちは生まれかわります。そのために、全国幹事会、自治体議員局、女性議員ネットワーク、青年委員会等から改革に向けた意向集約を勢力的に進めています。前例や固定観念にとらわれることなく、ポリティカル・イノベーション(PI、政治革新)に取り組み、皆さまのご期待に応えられるように生まれかわります。

2017年11月22日 民進党代表 大塚耕平

